

## 社会福祉法人健康の森学園 平成26年度事業報告

### ① 利用者支援の充実

- ・本人及び家族の意見に基づいた個別支援計画の作成と、定期懇談会による支援計画の現状確認と今後について、学期ごとに本人・家族・担当職員で懇談した。
- ・朝礼において宿直報告を行い、一日の活動を進める上で情報の共有化に努めた。
- ・サービス向上委員会を開催して、虐待や人権侵害の防止について共通認識を深めるとともに、職員の行動規範やサービスの内容について自覚を促した。また、第3者委員会を開いて本人が直接に第3者と面談ができるように支援した。
- ・毎月2回定例の職員会議を行い、支援の充実について検討した。

### ② 作業訓練の充実

- ・年間を通して269日間の作業訓練を実施した。基本的に月曜日～金曜日の9:00～16:30の作業時間の中で、農業を中心とした作業訓練を行い、体力づくり・労働習慣・責任感・挨拶・報告等の育成を図った。
- ・就労を目指して職場実習を繰り返し行い、その結果一般就労で1名と就労継続支援A型事業所に5名が就職した。
- ・乾しいたけ品評会において、日本きのこセンター理事長賞(全国大会 第3位)と林野庁長官賞(岡山県大会 第1位)を受賞した。
- ・月額平均で、自立訓練事業利用者では10,267円(前年度7,825円)を、就労移行事業利用者では21,078円(前年度18,352円)を、さらに就労継続支援事業利用者では22,000円(前年度19,429円)の工賃を支給した。

### ③ 生活訓練の充実

- ・掃除・洗濯・片付け等の生活技術について毎日1時間程度の支援を実施して、生活技術の向上を促した。また定期的に買い物学習などの活動を実施して生活経験を拡大した。
- ・自立訓練事業利用者やグループホーム利用予定者に対して、宿泊体験や市営バスの利用体験を行い、地域生活が円滑にできるように支援した。
- ・毎月2回の職員会議の間の時間を利用して、国語・算数等の教科学習の他、ペン習字や正しい歯磨き方法の指導や自治会(ともだちの会)の支援を行った。

### ④ 経験の拡大と余暇支援

- ・生活の幅を広げるために、学園行事(田植え祭り、夏の集い、運動会、収穫祭、マラソン大会、

学習発表会、学校行事)や障害者スポーツ大会(陸上競技、フライングディスク、フットベースボール)に参加した。

- ・障害者スポーツ大会の陸上競技では16名が参加して、金メダル5個、銀メダル2個、銅メダル3個を取得した。またフライングディスクでは15名が参加して金メダル8個、銀メダル6個、銅メダル5個を取得した。
- ・第1、3、5の土曜日の午前中に茶華道、スポーツ、音楽、手芸、芸術、のサークル活動を実施して、経験の拡大につなげた。
- ・休日外出では市営バスを利用して、買い物やカラオケができるように支援した。また、宿泊学習として、利用者全員と職員で県外旅行を行った。
- ・とんど祭りや納涼祭、すずらん祭り等の地域行事に参加して一般住民との交流を図った。また障害者週間では、他施設の利用者とともに啓発グッズの配布や施設製品の販売を行った。

#### ⑤ 健康・安全対策の充実

- ・毎朝、作業開始前の時間において、利用者の体温測定と体調確認を実施した。
- ・定期健康診断を2回、内科検診を2回、歯科検診を1回実施した。
- ・寮舎において、ダニ駆除や新型インフルエンザ対策を行い感染防止に努めた。
- ・毎月1回、火災や地震を想定した避難訓練を実施した。また、毎月10日を安全点検の日として危険箇所の点検と修繕を行った。
- ・利用者の緊急時対応訓練や不審者への対応訓練及び、救急蘇生法研修会を実施して緊急時に備えた。

#### ⑥ 職員資質の向上

- ・学園が行っている夏期研修会に参加して、専門職としての資質向上を図った。
- ・県内及び県外の施設職員対象の研修会に参加させて、資質向上や福祉情勢についての研修を深めた。また復命後においては、他職員への報告会を実施した。
- ・サービス管理責任者現任研修を受講させて支援内容の充実に努めた。
- ・福祉施設職員としての倫理観や行動規範の振り返りについて、サービス向上委員会が中心になり職員が自己評価を行った。

#### ⑦ 地域社会との連携

- ・新見市障害者地域活動支援センター(ほほえみ広場にいみ)に、障害者自立支援員として1名の職員を出向させ、在宅生活者と家族の支援を実施した。

- ・短期入所事業と日中一時支援事業の指定事業所として、短期入所事業では延べ51名を日中一時支援事業では、延べ21名を受け入れて、学校の休業中における、本人及び家族への支援を行った。
- ・今年度立ち上げた相談支援事業では、新規利用契約児・者数が141名で、合計462件の支援を行った。
- ・新見市社会福祉協議会主催の「夏のボランティア体験」の受け入れや、県内各大学の大学生を養護実習生として受け入れて、交流や啓発活動を行った。
- ・地元の養鶏業者や農家と作業契約を結び、施設の労働力を地域に提供した。

#### ⑧ グループホーム支援

- ・合計10カ所のグループホームを運営し、月平均45.8名の利用者の地域生活支援を行った。
- ・「すずらんハイツA」「すずらんハイツB」「あじさいハイツ」「はびねす」の利用者に対して、生活支援員3名を配置して生活支援の充実を行った。
- ・世話人連絡会議や生活支援員会議を毎月開催して、本人の生活状況について報告を受けるとともに、健康面や安全面での共通理解を行った。
- ・通所のために利用している市営バスに生活支援員が定期的に同乗して、乗車中の安全や一般乗客への迷惑がないように支援した。また、休日においては地域行事への参加など余暇支援を生活支援員の付き添いで行った。

#### ⑨ 保護者等との連携

- ・定期的に保護者会を開催して、施設の状況報告会や給食試食会、及び保護者作業日を設定して保護者との連携に努めた。
- ・担当職員との個別懇談会を実施し、保護者と職員の連携を図った。また保護者役員会を組織して、保護者会としての充実や施設運営について希望や意見を聞いた。
- ・双葉会（学校と施設の保護者会）の主催行事である夏の集いに全面的に協力して、施設と学校の保護者、職員、園生及び同窓生同士の交流を図った。